

周南諸島地域の振興計画

1 周南諸島地域の概況

周南諸島地域は、牛島、大津島及び野島の3島で構成されています。

各島とも、平坦地に乏しく、山地が大部分を占めています。

集落は、牛島及び野島については比較的まとまって形成されていますが、大津島については数か所に分散して形成されています。

気候は温暖で、降水量は年間を通じて多くありません。

本地域の人口は、平成12年の国勢調査によると、大津島の536人を筆頭に、野島225人、牛島114人となっています。本地域の人口減少率は過去10年間で31.4%に達しており、県内の離島地域中で最も高い率となっています。

また、本地域では、高齢者の人口比率は57.5%に達しています。

【各島の概況】

(平成12年10月1日現在)

島名	行政区域	面積	人口	人口増減率(対H2)	高齢者人口比率
牛島	光市	1.96km ²	114人	△40.0%	59.6%
大津島	周南市	4.73km ²	536人	△32.2%	59.1%
野島	防府市	0.73km ²	225人	△24.0%	52.4%
計	3市	7.42km ²	875人	△31.4%	57.5%

※資料出所：面積～全国都道府県市区町村別面積調、人口等～国勢調査

本地域の産業は水産業が主産業で、各島とも、農業は自家消費程度の生産高となっています。

大津島には回天記念館が整備され、多くの観光客を集めています。また、地域内各島においては、島の住民や団体の取組により、それぞれ他地域との交流行事が開催され、比較的交流が活発な地域となっています。

2 周南諸島地域の振興ビジョン

振興への視点

「元気な島づくり」への視点

県央部の位置を生かし、県内各方面と多様な交流を進め、にぎわいに満ちた元気な島づくりをめざします。

○「存在感のある島づくり」への視点

穏やかな気候と恵まれた自然を生かし、農水産業の新しい展開を見せる存在感のある島づくりをめざします。

10年後にめざす地域のすがた

四季を通じた多彩な行事の開催により、本土から多くの人を訪れるとともに、穏やかで豊かな島の自然は、都市部の子供たちにとっても自然体験・交流学习の場として活用されています。

住民は、環境と調和して営まれる農水産業に従事するとともに、安全で文化的なゆとりある暮らしを享受しています。

3 取組の内容

(1) 交通・通信の確保

離島航路

《現状・課題》

離島航路は、1島1航路で各島それぞれ本土との間に個別に開設され、すべて国の補助航路として指定されています。

離島航路事業は、各島とも、地元市と地域住民や関係団体などの出資により設立された、いわゆる第三セクターの法人により維持されていますが、過疎化、高齢化の進展などにより、各航路とも事業の経営状況は厳しく、国及び県からの補助金を活用して維持に努めており、今後、経営改善に向けての抜本的な対策が必要となっています。

各離島航路の船舶の状況については、牛島航路では比較的小型の旅客船を運航し、大津島航路では県内離島航路ではいち早くフェリーを導入し、野島航路では平成10年から高速の旅客船を運航するなど、それぞれの島のニーズに応じた船舶を運航しています。

牛島航路及び大津島航路の船舶については、いずれも建造後15年以上経過し、老朽化が進んでいます。

また、乗降施設などのバリアフリー化への対応については、各島とも、遅れており、地域の高齢化の進展に対応した対策が求められています。

【離島航路概要】

島名	1日当たり便数	料金	所要時間	船舶総トン数	旅客定員
牛島	3便	450円	25分	38.0	65
大津島	12便	540円	約30分	121.1	200
野島	4便	750円	27分	67.0	95

《振興の方向》

各離島航路とも、離島航路に係る施設のバリアフリー化への対応、運航ダイヤの見直しなどによる利便性の向上や交流人口の拡大を通じて利用者の増大を図るとともに、寄港地や料金の見直しなどによる事業経費の削減により、航路事業の経営の安定化につなげます。

牛島航路及び大津島航路については、公共交通機関のバリアフリー基準(移動円滑化基準)に適合した新船の建造や航路待合所の整備により、野島航路については、本土側の航路待合所の整備により、関係施設のバリアフリー化を推進します。

島内交通の現状と課題

《現状・課題》

各島内の交通手段としては、牛島及び野島については、島内の集落、公共施設

などが比較的まとまっていることから、自動車の使用は多くありません。

これに対して大津島は、集落、公共施設などが島内に分散しているため、普通乗用車、軽四輪自動車、原動機付自転車などが使用されています。

各島とも、生活環境の改善や産業、観光などの振興を図る上で、道路の整備に対するニーズは高くなっています。

島内の道路に関する各島ごとの現状及び課題は、次のとおりです。

- 牛 島 ・島内に市道はありません。集落内の道路について、コンクリートによる簡易舗装がされています。
- 大津島 ・島内の市道の総延長は9 kmを超えている上、その改良率は80%を超え、整備が進んでいます。加えて自動車の通行量も少ないため、これを活用して健康マラソン大会が開催されています。
- 野 島 ・島内の市道については、整備がほぼ完了しているものの、集落内の生活道について幅員が狭く急勾配の箇所があります。

《振興の方向》

各島ごとの振興の方向は、次のとおりです。

- 牛 島 ・住民が安心して、安全に通行できるよう、引き続き道路の維持・補修に努めます。
- 大津島 ・瀬戸内海の優れた景観を生かしたサイクリングコースや健康づくりのためのウォーキングコースとしての役割も期待されることから、その活用と整備手法について検討を進めます。
- 野 島 ・集落内の生活道について幅員が狭く急勾配の箇所があるため、高齢者や障害者に配慮した段差の解消や手摺りの設置などを進めます。

情報・通信の現状

《現状・課題》

各島とも、インターネットなどの利用について、高度情報通信ネットワーク社会の形成に必要な情報基盤の整備が遅れています。

また、携帯電話などのモバイル通信機器について、海岸付近を除き、地域内で使用できない場所が多く支障を生じています。

《振興の方向》

必要な情報通信基盤の整備が促進されるよう取組を進めます。

また、地域内においては、現状ではケーブルテレビの視聴は困難なので、視聴が可能となるよう基盤整備の促進に向けて取組を進めます。

野島においては、モバイル通信機器について、利用環境の改善が図られるよう取組を進めるとともに、島内の公共機関においてはインターネットの利用ができない状態にあるので、その利用が可能となるよう施設整備を行い、地域の情報化を進めます。

(2) 産業の振興

本地域の平成12年の国勢調査による産業別就業者数は、次表のとおりです。

【産業分類別就業者数】

島名	農業		漁業		第二次産業		第三次産業		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
牛島	0人	0%	37人	64%	1人	2%	20人	34%	58人	100%
大津島	5人	2%	59人	31%	24人	13%	102人	54%	190人	100%
野島	0人	0%	58人	59%	0人	0%	40人	41%	98人	100%
計	5人	1%	154人	45%	25人	7%	162人	47%	346人	100%

各島とも、水産業が主産業となっており、地域内の就業者総数に占める漁業従事者の割合は40%を超えています。

農業

《現状・課題》

かつて大津島は、農業が水産業と並んで島の主産業となっていました。就業者の高齢化に伴い、農地の多くが放置され、その荒廃が進んでいます。

大津島の主要農作物は、さつまいも、みかんなどですが、農作物を出荷している農家はわずかで、ほとんどの農家が自家消費程度の生産高に止まっています。

《振興の方向》

地域農業の保全と振興を図るため、休耕地の活用を進め、集落営農組織などの多様な担い手の育成を図ります。

水産業

《現状・課題》

小型底びき網漁、一本釣りなどを中心とした漁業が行われ、あじ、かれい、ふぐ、えびなどが水揚げされます。

各島とも、水産資源状態の悪化や就業者の高齢化、担い手の不足などが原因で、漁獲高が減少しています。

《振興の方向》

漁獲高の減少に対しては、魚礁の設置による漁場の整備・開発、種苗の放流などの栽培漁業を推進することにより、水産資源の保護・育成を図ります。

就業者の高齢化、担い手の不足その他の課題に対する各島ごとの対応策は、次のとおりです。

- 牛島
 - ・漁港施設の整備による漁港内のバリアフリー化及び漁業の省力化を進め、高齢者が漁業に従事しやすい環境づくりに努めます。
 - ・島内に水揚げされた魚介類について、交流行事などにおける販売を通じて、特産物としてPRに努め、牛島産魚介類のブランド化を進めます。
- 大津島
 - ・漁港施設の整備を進め、効率的な漁業経営の確立に努めます。
- 野島
 - ・漁港施設の整備による漁港内のバリアフリー化及び作業の省力化を進め、高齢者が働きやすい環境づくりに努めます。

- ・漁業技術研修の実施などにより漁業の後継者の確保・育成を図ります。
- ・水産資源状態の悪化に対応し、資源の確保のための漁場整備を進めます。

その他の産業

《現状・課題》

大津島には、隣接する黒髪島とともに、良質な花崗岩が埋蔵されており、かつては、島内では多数の採石場において採掘が行われていましたが、現在では採石場は1か所のみとなっています。

その他の事業所についても、全般的に減少傾向にあります。

《振興の方向》

大津島においては、島の特性を生かした観光産業の立地の促進やインターネットなどの情報技術を活用した新規産業の創出などを図ることにより、島の新たな産業振興を図ります。

(3) 生活環境の整備

水道

《現状・課題》

各島ごとの現状と課題は、次のとおりです。

- 牛 島 ・島内の井戸を水源として簡易水道による給水が行われています。
- 大津島 ・一部の集落を除き、本土からの海底送水により上水道による給水が行われています。
- 野 島 ・大津島と同様に海底送水により上水道による給水が行われています。

《振興の方向》

各島ごとの振興の方向は、次のとおりです。

- 牛 島 ・簡易水道の施設の適正な維持・管理を行い、引き続き安定した給水に努めます。
- 大津島 ・上水道による給水を、島内全域で行えるよう施設整備を進めます。また、現在、上水道による給水が行われている集落については、施設の適正な維持・管理を行い、引き続き安定した給水に努めます。
- 野 島 ・施設の適正な維持・管理を行い、引き続き安定した給水に努めます。

ごみ処理

《現状・課題》

牛島においては、可燃ごみは島内の焼却炉により処理し、不燃ごみは民間船を借り上げ本土へ搬送し処理しています。

大津島及び野島については、すべてのごみについて定期船などにより、本土へ搬送し、処理しています。

《振興の方向》

各島とも、引き続き現行の処理体制を維持することとし、分別収集の徹底により、循環型社会の形成に向けた環境への負荷の少ないごみ処理に努めます。

汚水処理

《現状・課題》

し尿の処理については、野島では、漁業集落排水施設が整備され、ほぼ各戸のトイレが水洗化されていますが、牛島及び大津島では、ほぼ全戸が汲み取り収集によっています。

《振興の方向》

牛島及び大津島においては、合併処理浄化槽の設置を推進し、生活環境の向上を図ります。

消 防

《現状・課題》

各島とも、消防団が組織されていますが、牛島及び大津島については、高齢化の進展により、消防団員の確保が困難になりつつあります。

《振興の方向》

各島において、老朽化した消防車などの更新と併せて、消防用の機械器具の充実と軽量化を進めます。

また、自主防災組織の充実などにより、緊急時の消防体制を調えます。

牛島においてはヘリコプターを活用した防災訓練の実施により、大津島においては自治会単位での消防訓練の実施により、非常事態に備えるとともに、防災意識の高揚にも努めます。

(4) 医療の確保

《現状・課題》

各島とも、医療施設として診療所が設置されており、一週当たり、牛島については4日、大津島については5日、野島については2日、それぞれ診療が行われています。

また、大津島については、歯科診療所が設けられ、1週当たり3日の診療が行われています。

また、大津島は、島内の集落が分散しているため、それぞれの地区と診療所を結ぶ患者輸送車が運行されています。

緊急時の医療の確保として、救急患者などの本土の医療施設への輸送に当たっては、各島とも、民間船の借上げにより対応しており、ヘリコプターによる輸送実績はありません。

《振興の方向》

各島とも、引き続き島内の医療の充実に努めます。

また、牛島においては、診療所が老朽化していることから、その建て替えを行うとともに、医療器具の更新を図ります。

救急患者の本土への輸送に当たっては、牛島及び大津島については、島内にヘリコプターの離着陸場が確保されていることから、県消防防災ヘリコプターなどの利用が促進されるよう体制の整備を進めます。

野島においては、新たにヘリコプターの離着陸場の確保を進めるとともに、その利用体制の整備を進めます。

また、大津島においては、保健サービスとして、定期検診の実施や保健師の訪問指導などを行い住民の健康の確保に努めます。

(5) 高齢者等の福祉の増進

《現状・課題》

各島とも、高齢者人口比率は高いものの、介護を必要としないいわゆる元気老人が多いことから、生きがいを持って自立した生活を送ることができる態勢づくりが求められています。

介護サービスについては、牛島及び大津島においては、島内にデイサービスセンターが設置され、大津島においては、デイサービスの提供が行われています。

ホームヘルプサービスは、各島で提供されていますが、ホームヘルパーはいずれも島内では確保できておらず、本土からの派遣によっています。

《振興の方向》

各島とも、島内でのホームヘルパーの確保に努めます。

その他各島ごとの振興の方向は、次のとおりです。

- 牛 島 ・ 島内にデイサービスセンターが設置されていることから、これを活用し、各種介護サービスの提供に努めます。
 - ・ 訪問系の介護サービスの利用に当たり、島内での利用者が負うこととなる交通費などの負担を、市が代わって補填する制度を引き続き実施し、島内における介護サービスを利用しやすい環境づくりに努めます。
 - ・ 独居老人に対する緊急時の対応として、消防署を拠点とした緊急通報システムの整備を行い、非常時の連絡体制の強化を図ります。
- 大津島 ・ 既存のデイサービスセンターに併設して高齢者生活支援ハウスを整備し、独立して生活するには不安のある高齢者に対して、安心して日常生活がおくれるようサポートを行います。
 - ・ 現在提供されている介護予防に係るサービスも含めた介護サービス全体のレベルアップを図るとともに、情報提供、相談体制などの充実に努めます。
- 野 島 ・ 介護サービスの利用環境を調えるため、在宅介護支援センターを整備し、介護サービスに係る情報提供、相談体制などの充実に努めます。

(6) 教育及び文化の振興

学校教育

《現状・課題》

各島とも、小中学校が設置されていますが、牛島の小中学校は休校中です。

大津島及び野島の小中学校については、島内の児童生徒数が減少する中、学校の維持・存続に向けた取組が求めらるとともに、離島の特性に応じた少人数教育の検討も必要となっています。

《振興の方向》

各島ごとの振興の方向は、次のとおりです。

- 牛 島 ・休校となっている小中学校の今後の利活用を検討します。
- 大津島 ・小中学校の教育に、島の豊かな自然を教材に採り入れるなど地域特性を生かした教育の充実を図ります。また、少人数クラスを生かした教育を推進し、地域の未来を担う人間性豊かで心身ともにたくましい子どもを育むよう努めます。
 - ・本島は、広く他の地域にとっても、豊かな教育活動の場としての役割を期待されていることから、「自然体験・交流学习」、「平和に関する学習」などの場として、幅広い活用がされるよう環境整備に努めます。
- 野 島 ・島内の小中学校において、本土から児童生徒の受入れを行って小中学校の存続を図っていますが、この取組を今後更に拡充させます。
 - ・児童生徒に、様々な社会活動を体験させ、人間性豊かな子どもを育むよう努めます。

生涯学習

《現状・課題》

各島とも、公民館などにおいて、各種教室、講座の開設などを通じて住民への学習機会の提供が行われています。

《振興の方向》

各島ごとの振興の方向は、次のとおりです。

- 牛 島 ・住民に対する生涯学習に対する普及・啓発を図るため、公民館活動を中心に、自治会や老人クラブなどの団体と連携をとりつつ、魅力ある学習機会の提供に努めます。
- 大津島 ・地元市において全市的な取組の下に生涯学習を推進しており、島内の公民館、集会所などにおける活動を中心に、その推進を図ります。
 - ・回天記念館、大津島ふれあいセンターなどを活用し、人命の尊さ、恒久の平和を全国に情報発信する広域的な研修・生涯学習の拠点づくりを進めます。
- 野 島 ・生涯学習への取組を通じて、住民同士の交流を深めるため、女性リーダーの養成を図ります。

文化

《現状・課題》

各島ごとの現状と課題は、次のとおりです。

- 牛 島 ・本土には見られない希少な動植物が生息し、貴重な自然環境が形成さ

れています。

- 大津島 ・ 伝統芸能である平家踊り、長持唄などの伝承活動が行われています。
・ 静かで美しい島の自然環境を舞台にコンサート、芸術家によるワークショップなどが開催されています。
- 野 島 ・ 島の伝統文化に対する保存への取組が芽生えています。

《振興の方向》

各島ごとの振興の方向は、次のとおりです。

- 牛 島 ・ 天然記念物の指定を受けているモクゲンジなどの貴重な天然資源の保護に努めます。
・ 牛島の伝統行事「牛島えびすまつり」などの伝統文化の保存のため、情報を内外に向けて発信します。
- 大津島 ・ 伝統芸能の伝承活動の支援に努めます。
・ 島内でコンサート、ワークショップなどが開催されてきた経緯を踏まえ、引き続き、こうした活動を誘致し、離島文化の振興と離島地域の活性化に努めます。
- 野 島 ・ 野島盆踊りなどの島の伝統文化について、島内の小中学校の児童生徒への教授などにより、その伝承に努めます。
・ 島内の空き家を活用して島の歴史、文化などについて紹介・展示をする施設を整備し、島の情報の発信に努めます。

(7) 観光の開発

《現状・課題》

地域内の観光資源としては、大津島及び野島については、島の一部が瀬戸内海国立公園に指定されており、牛島についても、周辺の海域への眺望などの優れた自然景観を有しているとともに、大津島の回天記念館など特色ある施設も設けられています。

本地域は、山口・防府地域、周南地域などの県内の都市部からのアクセスもよいことから、県内の離島地域のうちで、最も交流人口が多い地域となっています。

しかし、地域内では宿泊施設などの整備が遅れ、旅館などの宿泊客の受入れ可能人数は、他の離島地域と比較しても少なく、来島者の多くが日帰り客となっています。

《振興の方向》

宿泊客の確保に向けて、瀬戸内海各島を巡る体験・滞在型の広域観光ルートのモデルコースを設定・提案し、インターネットなどを活用して広く一般にPRを行います。

また、野島においては、既存のキャンプ場の魅力を高めるための施設の整備をし、本土からの交流人口の拡大をめざします。

(8) 他地域との交流の促進

《現状・課題》

本地域においては、地の利を生かし、地域の住民が主体となって、次のとおり、交流の促進に向けた取組が活発に行われています。

○牛 島 牛島の朝市(隔年1回)

○大津島 ふれあい買い物ツアー(年1回)、ポテト健康マラソン大会(年1回)

○野 島 野島の浜市(年3回)、野島百楽コンサート(適時)、お笑い交流会(年1回)

これらの取組については、今後も、その継続・拡大が期待されているところですが、高齢化の進展と島内の若者の減少などにより、規模の縮小、開催回数の減などにより対応せざるを得ない島もあります。

《振興の方向》

これらの取組について、より一層交流人口の拡大につながるよう支援します。

また、インターネットなどを活用し、交流行事の情報発信、PRに努めます。

(9) 国土保全施設等の整備

《現状・課題》

各島とも、人家、公的施設、農地などが海岸の背後に集中しており、津波、高潮などによる災害を受けやすい位置にあります。

また、大津島については、島内に急傾斜の箇所が多く、地質が花崗岩質で風化が進んでおり、地盤が極めて脆弱で、土石流や地すべりなどの土砂災害が発生しやすい状況となっています。

《振興の方向》

津波などの災害から人命、財産などを保護し、併せて海岸浸食から国土を保全するため、護岸の新設やかさ上げなどの海岸保全施設の整備を計画的に進めます。

また、地すべり防止対策、土砂の流出や急傾斜地の崩壊などによる土砂災害を防止するための土砂災害防止施設の整備などを推進し、人命、財産などを保護するとともに、国土の保全に努めます。

(10) その他

《現状・課題》

大津島については、全域が周南都市計画区域市街化調整区域となっているため、都市計画法上、本地域内においては一定の行為を除き、建築物の建築や開発などが制限されています。

《振興の方向》

状況に応じて、都市計画区域の見直しなどを検討します。